

現代政策学部

社会経済システム学科

現代政策学部

履修の手引と手続

I 授業科目について

現代政策学部における授業科目は、全学共通基盤科目、基本科目（演習科目、語学科目、政策系科目、キャリア系科目）、専門科目（分野領域主要科目含む）、関連科目（導入基礎科目含む）からなる。その他、自由科目（教職に関する科目）がある。

II 授業科目の単位と認定

本学では単位制が採用されている。単位制とは、一つひとつの授業科目に一定の基準により定められた単位であり、履修した授業科目に対して、試験その他の方法により学習評価をしたうえで、その単位を認定する制度である。単位認定の評価は、S・A・B・Cにより単位を修得したことを示す。

III コース制について

現代政策学部では、「公共政策コース」、「地域創生コース」「多文化共生コース」の3コースが設定されている。それぞれのコースより、専門科目の分野領域主要科目が異なっている。所属コースの選択は、2年次に行う。

IV 進級条件について

各年次で進級に必要な最低単位数は、次の表に示すとおりである。

【進級要件】

学年	要件	最低修得単位数
1年から 2年	次の科目を含んで15単位 フレッシュマンセミナーA・B 又はFreshman Seminar A・B（2科目4単位中）	2単位
2年から 3年	次の科目を含んで50単位 フレッシュマンセミナーA・B 又はFreshman Seminar A・B（2科目4単位中）	4単位
	ソフォモアセミナーA・B 又はSophomore Seminar A・B（2科目4単位中）	2単位
	政策研究基礎	2単位
	コミュニケーションのための基礎英語A・B（2科目4単位中） 〔外国人留学生〕	2単位
	日本語IA・IB（2科目4単位中）	2単位

3年から 4年	次の科目を含んで 86 単位	
	フレッシュマンセミナーA・B	4 単位
	又は Freshman Seminar A・B (2 科目 4 単位中)	
	ソフォモアセミナーA・B	4 単位
	又は Sophomore Seminar A・B (2 科目 4 単位中)	
	政策学ゼミナールIA・IB	4 単位
	又は Research Seminar IA・IB (2 科目 4 単位中)	
	政策研究基礎	2 単位
	政策学概論	2 単位
	キャリアリサーチ	1 単位
コミュニケーションのための基礎英語A・B (2 科目 4 単位中)	4 単位	
[外国人留学生]		
日本語IA・IB (2 科目 4 単位中)	4 単位	

V 卒業について

(1) 卒業に必要な単位数は、次の表に示すとおりである。

ただし、自由科目（教職関連科目）の単位は、卒業に必要な単位には含まれない

区分	分野	科目名	単位数	
全学共通基盤科目		協創力体験演習Ⅰ	1単位	
		協創力体験演習Ⅱ	1単位	
		協創力実践演習	1単位	
基本科目	演習科目	フレッシュマンセミナーA・B又はFreshman Seminar A・B	4単位	29単位
		ソフモアセミナーA・B又はSophomore Seminar A・B	4単位	
		政策ゼミナールⅠA・ⅠB 又はResearch SeminarⅠA・ⅠB	4単位	
		政策ゼミナールⅡA・ⅡB 又はResearch SeminarⅡA・ⅡB	4単位	
	語学科目	コミュニケーションのための基礎英語A・B	4単位	
	政策系科目	政策研究基礎	2単位	
		政策学概論	2単位	
	キャリア系科目	キャリアリサーチ	1単位	
		キャリアアクション	1単位	
専門科目		分野領域主要科目 選択必修	8単位以上	52単位以上
		選択		
関連科目		導入基礎科目 選択必修	6単位以上	43単位以上
		選択		
合計			124単位	

*外国人留学生は、必修語学科目として日本語ⅠA・ⅠBの2科目4単位を修得すること。

(2) 2年次以上に編入または転部した者については、次のとおりとする。

編入または転入した者で、本学部の必修科目を振替できなかった場合は、編入又は転入した年度にその科目を履修することとする。

但し、2年次に編入又は転入した者はフレッシュマンセミナーA・Bの代替として関連科目から2科目4単位を修得しなければならない。3年次に編入又は転入した者はフレッシュマンセミナーA・B及びソフモアセミナーA・Bの代替として関連科目から4科目8単位を修得しなければならない。

特別共同教育プログラム等により秋季に編入学した者は、上記の対応に加え、プレゼミナール

(SEP) を政策ゼミナールⅡB（又は Research SeminarⅡB）に振り替える。

VI 履修単位の上限について

各年次にわたって適切に授業科目を履修するため、卒業要件として修得すべき単位数について、次のように学期毎に履修科目として登録することができる単位数の上限を定めている。

（学則参照）

留意して履修申請を行い進級、卒業に必要な単位数を満たすこと。

年次	1年次		2年次		3年次		4年次	
学期	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
単位	22	22	22	22	22	22	22	22

(1) 履修科目の登録単位数の上限を超えて履修を認める場合

- ① 履修申請を行う学期の直前学期の GPA が 3.0 以上の場合は当該学期 4 単位まで、履修科目の登録単位数の上限を超えて科目の登録を認める場合がある。
- ② 編入生は、履修単位上限数を超えて履修することを認める。

(2) 履修科目の登録単位数の上限として、計算しない科目

- ① 卒業に必要な単位数に算入しない科目。（自由科目）
- ② 授業期間外で実施する科目。（インターンシップ、ボランティア等の集中講義科目等）
- ③ 学外での学習が単位として認められる科目（学外研修、単位互換科目等）

(3) JEAP 留学者の履修上限単位数については、別途定める。

Ⅶ 授業科目の学年配当と修得すべき単位数

1. 全学共通基盤科目

全学共通基盤科目は必修科目である。なお、次のとおり履修の条件がある。

- イ. 協創力体験演習Ⅱを履修するためには、協創力体験演習Ⅰを修得しなければならない。
- ロ. 協創力実践演習を履修するためには、協創力体験演習Ⅱを修得しなければならない。

学科	系列	学年配当	授業科目	単位数
社会経済システム学科	全学共通基盤科目	1	協創力体験演習Ⅰ	1
		2	協創力体験演習Ⅱ	1
		3	協創力実践演習	1

2. 基本科目

(1) 演習科目

演習科目はすべて必修科目である。なお、次のとおり履修の条件がある。

- イ. ソフォモアセミナーA・B又はSophomore Seminar A・Bを履修するためには、フレッシュマンセミナーA・B又は、Freshman Seminar A・Bのいずれか2単位を修得し、かつ2年生に進級していなければならない。
- ロ. 政策ゼミナールⅠA・ⅠB又はResearch SeminarⅠA・ⅠBを履修するためには、ソフォモアセミナーA・B又はSophomore Seminar A・Bのいずれか2単位を修得し、かつ3年生に進級していなければならない。
- ハ. 政策ゼミナールⅡA・ⅡB又はResearch SeminarⅡA・ⅡBを履修するためには、政策ゼミナールⅠA・ⅠB又はResearch SeminarⅠA・ⅠBの単位を修得し、かつ4年生に進級していなければならない。また、政策ゼミナールⅠA・ⅠB又はResearch SeminarⅠA・ⅠBと同じ担当教員を継続して履修しなければならない。

演 習 科 目

学科	系列	学年配当	授業科目	単位数
社会経済システム学科	演習科目	1	フレッシュマンセミナーA又はFreshman Seminar A	2
			フレッシュマンセミナーB又はFreshman Seminar B	2
		2	ソフォモアセミナーA又はSophomore Seminar A	2
			ソフォモアセミナーB又はSophomore Seminar B	2
		3	政策ゼミナールⅠA又はResearch SeminarⅠA	2
			政策ゼミナールⅠB又はResearch SeminarⅠB	2
			※プレゼミナール (SEP)	2
		4	政策ゼミナールⅡA又はResearch SeminarⅡA	2
政策ゼミナールⅡB又はResearch SeminarⅡB	2			

※印の付している科目は、特別共同教育プログラム (SEP) 秋季編入生履修科目

(2) 語学科目

すべて必修科目である。

学科	系列	学年配当	授 業 科 目	単位数
社会経済システム学科	必修語学科目	1	コミュニケーションのための基礎英語A	2
			コミュニケーションのための基礎英語B	2
			※日本語 I A	2
			※日本語 I B	2

※印の付している科目は、外国人留学生履修科目

なお、日本語能力試験 N1 合格者は、申請により※印の付している科目の単位を認定し、履修を免除する。

(3) 政策系科目

すべて必修科目である。

学科	系列	学年配当	授 業 科 目	単位数
社会経済システム学科	政策系科目	1	政策研究基礎	2
		2	政策学概論	2

(4) キャリア系科目

すべて必修科目である。

学科	系列	学年配当	授 業 科 目	単位数
社会経済システム学科	キャリア系科目	2	キャリアリサーチ	1
		3	キャリアアクション	1

3. 専門科目

(1) 分野領域主要科目

専門科目の分野領域主要科目は、8単位以上を修得しなければならない。コースにより選択必修科目が異なるので、各コースに沿った履修計画をたてること。自分の所属するコース以外の分野領域主要科目は専門科目として単位を修得することができる。

学科	系列	領域	学年 配当	授業科目	単位数	最低 修得 単位数	備考
社会経済システム学科	公共政策コース	政治	2	行政学A	2	8 単 位 以 上 選 択 必 修	分野領域主要科目から8単位以上を含み、専門科目を52単位以上修得
			3	公共政策学	2		
		法律	2	憲法(基本的人権)	2		
			2	民法(総則)	2		
		経済	2	マクロ経済理論	2		
			2	ミクロ経済理論	2		
		福祉	2	福祉政策	2		
			2	社会保障論(総論)	2		
	地域創生コース	地域	2	地域政策	2	8 単 位 以 上 選 択 必 修	
			3	交通政策	2		
		経済	2	マクロ経済理論	2		
			2	ミクロ経済理論	2		
		法律	2	憲法(基本的人権)	2		
			2	民法(総則)	2		
		文化	2	文化政策	2		
			2	芸術・文化遺産政策	2		
	多文化社会コース	国際	2	外交政策	2	8 単 位 以 上 選 択 必 修	
			2	国際関係論入門	2		
		文化	2	文化政策	2		
			2	芸術・文化遺産政策	2		
		情報	2	情報通信政策論	2		
			2	情報リテラシー論	2		
		福祉	2	福祉政策	2		
			2	社会保障論(総論)	2		

(2). 専門科目(選択科目)

各分野領域主要科目以外にも、下記の専門科目（選択科目）がある。

専門科目は、自分の所属するコースの分野領域主要科目 8 単位以上を含み、合計で 52 単位以上修得しなければならない。自分の所属するコース以外の分野領域主要科目を履修しても、専門科目として履修することができる。

日本語表記科目は日本語による授業、英語表記科目は英語による授業となる。

学 科	系 列	学 年 配 当	授 業 科 目	単 位 数	最 低 修 得 単 位 数	備 考
社 会 経 済 シ ス テ ム	専 門 科 目	2	Area Studies A(Asia-Pacific)	2	分野領域主要科目 8 単 位以上を含み、52 単位 以上修得。	
			Area Studies B(Europe)	2		
			Area Studies C(America)	2		
			医療経済学	2		
			介護概論	2		
			会社法	2		
			科学技術思想	2		
			環境政策	2		
			観光政策	2		
			金融システム論	2		
			金融政策論	2		
			刑法各論	2		
			刑法総論	2		
			建築基準法	2		
			憲法（統治機構）	2		
			国際政治（アジア）	2		
			国際政治（欧米）	2		
			国際政治外交史	2		
			財政学	2		
			産業構造論	2		
産業心理学	2					
産業政策論	2					
ジェンダー文化論	2					

学科	系列	学年配当	授業科目	単位数	最低修得単位数	備考
社会経済システム	専門科目	2	社会安全政策論	2		
			社会調査法(質的調査)	2		
			社会調査法(量的調査)	2		
			社会福祉概論	2		
			社会保障論(各論)	2		
			障害者福祉論	2		
			食と農の経済学A	2		
			食と農の経済学B	2		
			女性学概論	2		
			人的資源管理論	2		
			政治学	2		
			租税論	2		
			多文化社会論	2		
			地域社会学	2		
			地域防災政策A	2		
			地域防災政策B	2		
			都市計画法	2		
			都市社会学	2		
			日本政治外交史	2		
			比較文化史	2		
			プログラミングA	2		
			プログラミングB	2		
			文化行政論	2		
		文化史	2			
		マクロ経済政策	2			
		ミクロ経済政策	2			
		民法(物権)	2			
		労働社会学	2			
		3	International Relations	2		
NPO論	2					
アート・マネジメント	2					

学科	系列	学年配当	授業科目	単位数	最低修得単位数	備考
社会 経済 システム	専 門 科 目	3	アジアの社会と福祉	2		
			医事法制	2		
			医療福祉経営	2		
			医療福祉特講	2		
			応用A I プログラミング	2		
			行政学B	2		
			行政法A	2		
			行政法B	2		
			金融データ分析	2		
			計量経済分析入門	2		
			ゲーム理論	2		
			ゲーム理論とA I	2		
			公共経済学	2		
			行動経済学	2		
			公立文化施設論	2		
			国際社会福祉論	2		
			国際法（各論）	2		
			国際法（総論）	2		
			コミュニティ・ビジネス論	2		
			社会科学におけるデータサイエンス	2		
			社会心理学	2		
			社会福祉施設経営	2		
			社会保障財政（各論）	2		
			社会保障財政（総論）	2		
			社会保障法	2		
			商法	2		
			政策過程論	2		
政策デザイン論	2					
政策評価論	2					
政策分析論	2					
地域活性化論	2					

学科	系列	学年配当	授業科目	単位数	最低修得単位数	備考
社会 経済 システム	専 門 科 目	3	地域金融論	2		
			知的財産法	2		
			地方財政A	2		
			地方財政B	2		
			地方自治論	2		
			デジタルガバメント論	2		
			デジタルビジネス論	2		
			都市経済論A	2		
			都市経済論B	2		
			まちづくり論	2		
			民法（債権各論）	2		
			民法（債権総論）	2		
			リスクマネジメント論	2		
			労働法	2		

4. 関連科目

関連科目から、導入基礎科目を6単位以上選択必修し、選択科目から43以上選択し、修得しなければならない。

日本語表記科目は日本語による授業、英語表記科目は英語による授業となる。

学科	系列	学年配当	授業科目	単位数	最低修得単位数	備考
社会 経済 システム	導入基礎科目	1	基礎経済学	2	6単位以上選択必修	
			社会思想概論	2		
			情報学概論	2		
			政策研究の基礎数学	2		
			政治学基礎	2		
			法律学の学び方	2		
	関連科目	1	English Communication I A	2	導入基礎科目6単位以上を含み、43単位以上選択	
			English Communication I B	2		
			Oral English I A	2		
			Oral English I B	2		
			Public Communication I A	2		
			Public Communication I B	2		
			インターンシップ I	2		
			英語集中トレーニング A	4		
			英語集中トレーニング B	4		
			海外研修 I	2		
			海外研修 II	2		
			海外研修 III	2		
			海外研修 IV	2		
			会計基礎 A	2		
			会計基礎 B	2		
			家族と法(民法入門)	2		
			課題解決演習 I A	2		
			課題解決演習 I B	2		
			からだのメカニズム A	2		

学科	系列	学年 配当	授業科目	単 位 数	最低修得単位数	備考
社会 経済 シ ス テ ム	関 連 科 目	1	からだのメカニズムB	2		留学生履修科目
			韓国語 I A	2		
			韓国語 I B	2		
			企業と法（商法入門）	2		
			基礎社会学	2		
			基礎心理学	2		
			機能的解剖学概論	2		
			教養英語 A	2		
			教養英語 B	2		
			グローバル社会と女性	2		
			経済史入門	2		
			ゲーム理論入門	2		
			健康スポーツ I A	1		
			健康スポーツ I B	1		
			健康スポーツ II A	1		
			健康スポーツ II B	1		
			現代社会と法（国際法を含む）	2		
			現代社会と法（日本国憲法）	2		
			現代日本の社会経済システム	2		
			現代の地域紛争 A	2		
			現代の地域紛争 B	2		
			国際インターンシップ I	2		
			国際グローバル研修	2		
			国際社会入門	2		
			コンピュータ・リテラシー	2		
			資格英語 I A	2		
			資格英語 I B	2		
資格英語 II A	2					

学科	系列	学年配当	授業科目	単位数	最低修得単位数	備考
社会 経済 シ ス テ ム	関 連 科 目	1	資格英語ⅡB	2		
			資格英語ⅢA	2		
			資格英語ⅢB	2		
			自校史研究	2		
			社会学の考え方	2		
			職業生活と法(労働法入門)	2		
			女性とキャリアデザイン	2		
			女性とダイバーシティ	2		
			スペイン語A	2		
			スペイン語B	2		
			スポーツコーチングⅠA	2		
			スポーツコーチングⅠB	2		
			生命と医療A	2		
			生命と医療B	2		
			世界の中の日本A	2		
			世界の中の日本B	2		
			組織行動の心理学	2		
			地域と大学	2		
			チェコ語A	2		
			チェコ語B	2		
			中国語ⅠA	2		
			中国語ⅠB	2		
			中国語集中トレーニングⅠA	4		
			中国語集中トレーニングⅠB	4		
			データサイエンス入門	2		
			哲学入門(概説)	2		
			哲学入門(発展)	2		
			ドイツ語ⅠA	2		
			ドイツ語ⅠB	2		

学科	系列	学年配当	授業科目	単位数	最低修得単位数	備考
社会 経済 シ ス テ ム	関 連 科 目	1	統計学入門	2		留学生履修科目 留学生履修科目
			日常生活と法（民法入門）	2		
			日本経済論	2		
			日本語 I C	2		
			日本語 I D	2		
			日本文化論	2		
			ハンガリー語 A	2		
			ハンガリー語 B	2		
			犯罪と法（刑法入門）	2		
			比較経済史	2		
			フランス語 I A	2		
			フランス語 I B	2		
			文化研究 I	1		
			文化研究 II	1		
			ポーランド語 A	2		
			ポーランド語 B	2		
			ボランティア I	2		
			マレー語 A	2		
			マレー語 B	2		
			留学英語 A	2		
		留学英語 B	2			
		論理的思考法 I A	2			
		論理的思考法 I B	2			
		2	English Communication II A	2		
			English Communication II B	2		
			Oral English II A	2		
			Oral English II B	2		
インターンシップ II	2					

学科	系列	学年配当	授業科目	単位数	最低修得単位数	備考
社会 経済 シ ス テ ム	関 連 科 目	2	運動処方論	2		
			課題解決演習ⅡA	2		
			課題解決演習ⅡB	2		
			韓国語ⅡA	2		
			韓国語ⅡB	2		
			健康スポーツⅢA	1		
			健康スポーツⅢB	1		
			健康スポーツ栄養マネジメント論	2		
			健康スポーツ心理学	2		
			健康スポーツ生理学概論	2		
			健康マネジメント概論	1		
			国際インターンシップⅡ	2		
			国際政策研修	4		
			個人情報保護法	2		
			数理的思考法ⅠA	2		
			数理的思考法ⅠB	2		
			スポーツ・マネジメント概論	1		
			スポーツ医学	2		
			スポーツ経営論	2		
			スポーツコーチング実践A	1		
			スポーツコーチング実践B	1		
			スポーツコーチング実践C	1		
			スポーツ産業論	2		
			スポーツバイオメカニクス	2		
			体力トレーニング論	2		
			宅建特殊演習A	2		
			宅建特殊演習B	2		
中国語ⅡA	2					

学科	系列	学年配当	授業科目	単位数	最低修得単位数	備考
社会 経済 シ ス テ ム	関 連 科 目	2	中国語ⅡB	2		留学生履修科目 留学生履修科目
			中国語集中トレーニングⅡA	4		
			中国語集中トレーニングⅡB	4		
			地理学A（地誌を含む）	2		
			地理学B	2		
			ドイツ語ⅡA	2		
			ドイツ語ⅡB	2		
			日本語ⅡA	2		
			日本語ⅡB	2		
			ビジネス英会話A	2		
			ビジネス英会話B	2		
			ビジネスと資格	2		
			不動産学A	2		
			不動産学B	2		
			不動産法規特殊演習A	2		
			不動産法規特殊演習B	2		
			フランス語ⅡA	2		
		フランス語ⅡB	2			
		ボランティアⅡ	2			
		論理的思考法ⅡA	2			
		論理的思考法ⅡB	2			
		3	インターンシップⅢ	2		特別共同教育プログラム（SEP） 編入生及び留学生履修科目
			外国史概説	2		
			課題解決演習ⅢA	2		
			課題解決演習ⅢB	2		
			機械学習とAⅠ	2		
			現代日本の経済事情（SEP）	2		
現代日本の法と政治（SEP）	2					

学科	系列	学年配当	授業科目	単位数	最低修得単位数	備考
社会 経済 シ ス テ ム	関 連 科 目	3	国際インターンシップⅢ	2		特別共同教育 プログラム (SEP) 編入生及び 留学生 履修科目
			国際経済論A	2		
			国際経済論B	2		
			数理的思考法ⅡA	2		
			数理的思考法ⅡB	2		
			西洋哲学概説	2		
			データサイエンス特別講義Ⅰ	2		
			データサイエンス特別講義Ⅱ	2		
			データサイエンスと数理統計	2		
			東洋哲学概説	2		
			トレーニング指導法実習	2		
			日本語特殊演習ⅠA	2		
			日本語特殊演習ⅠB	2		
			日本語特殊演習ⅡA	2		
			日本語特殊演習ⅡB	2		
			日本語特殊演習ⅢA	2		
			日本語特殊演習ⅢB	2		
			日本語特殊演習ⅣA	2		
			日本語特殊演習ⅣB	2		
			日本語特殊演習ⅤA	2		
			日本語特殊演習ⅤB	2		
日本語特殊演習ⅥA	2					
日本語特殊演習ⅥB	2					
日本史概説A	2					

学科	系列	学年配当	授業科目	単位数	最低修得単位数	備考
社会 経済 システム	関連 科目	3	日本史概説B	2		
			ボランティアⅢ	2		
			倫理学概説A	2		
			倫理学概説B	2		
		4	インターンシップⅣ	2		
			課題解決演習ⅣA	2		
			課題解決演習ⅣB	2		
			国際インターンシップⅣ	2		
			ボランティアⅣ	2		

5. 教職関連科目(自由科目)

教職関連科目は、希望者により選択履修できる。なお、これらの科目は自由科目であり、卒業に必要な単位に算入されない。

詳細については、教員免許状取得のための課程の頁を参照すること。

学科	系列	授 業 科 目	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次
社会 経 済 シ ス テ ム 学 科	自 由 選 修 目	教育学概論A	2			
		教育学概論B	2			
		教育史	2			
		教育課程論（総合的な学習・探究の時間の指導法を含む）	2			
		教職論	2			
		生徒指導（進路指導の理論及び方法を含む）		2		
		教育心理学		2		
		教育方法及び ICT 指導法		2		
		特別支援教育		2		
		道徳教育の理論と指導法		2		
		学校と図書館		2		
		ジェンダー・教育・ダイバーシティ		2		
		スチューデント・インターシップⅠ		1		
		スチューデント・インターシップⅡ		1		
		特別活動論				2
		教育相談（カウンセリングを含む）				2
		社会科教育法A				4
		社会科教育法B				4
		公民科教育法A				2
		公民科教育法B				2
介護等体験実習（事前及び事後指導を含む）				2		
教職実践演習（中・高）					2	
教育実習Ⅰ（事前及び事後指導を含む）					3	
教育実習Ⅱ					2	

6. オールイングリッシュ科目

現代政策学部の授業科目のうち、以下に示す授業科目（「オールイングリッシュ授業科目」）については、全て英語による授業です。

なお、これらのオールイングリッシュ授業科目を履修する場合には、次の点に留意しなければなりません。

日本語対応科目との重複履修はできません。

（日本語対応科目のある「オールイングリッシュ授業科目」は、下表に示すとおりです。）

オールイングリッシュ授業科目の日本語対応科目

(1) 基本科目・演習科目

系列	学年 配当	オールイングリッシュ 授業科目	単位 数	日本語対応科目	単位 数
基 本 科 目	1	Freshman Seminar A	2	フレッシュマンセミナーA	2
		Freshman Seminar B	2	フレッシュマンセミナーB	2
	2	Sophomore Seminar A	2	ソフオモアセミナーA	2
		Sophomore Seminar B	2	ソフオモアセミナーB	2
	3	Research Seminar I A	2	政策ゼミナール I A	2
		Research Seminar I B	2	政策ゼミナール I B	2
	4	Research Seminar II A	2	政策ゼミナール II A	2
		Research Seminar II B	2	政策ゼミナール II B	2

* 上記科目を履修の場合は、基本科目の必修科目となります。

Ⅷ 授業科目の履修申請

履修する授業科目は、毎学年所定の期間に履修申請をしなければならない。この履修申請は、年間の受講計画をたて、単位を修得する意思表示をする重要な手続きである。履修申請を間違えたために、授業科目の履修ができなくなり、その結果進級はもとより、卒業ができなくなる場合もあるので、以下に掲げる注意事項を厳守して、誤りのないように履修申請すること。

－履修申請時の注意事項－

- (1) 当該学部・学科の授業時間割表を参照し、受講したい授業科目の曜日、時限、コマ・コード^{※1}、授業科目名、開講期間、担当教員等を確認の上、申請を行なうこと。
- (2) 履修申請の期間及び方法は、各年次初めのオリエンテーションで説明をするので、確認をすること。
- (3) 春・秋学期ともに、履修内容照合・変更期間を設けているので、間違いなく申請した授業科目が登録されているかを確認すること。登録に誤りがある場合は、この期間中に学部事務室に申し出ること。
- (4) 履修内容照合・変更期間以外で、登録した授業科目の履修変更（追加・取消等）は認められない。
- (5) 履修申請（登録）をしていない授業科目は、受講しても単位は認められない。
- (6) 同一曜日の同一時限に開講されている授業科目を複数履修申請することはできない。
- (7) 単位を修得した授業科目は、再度履修することはできない。
- (8) 計画的な学習を促すため、授業以外の学習時間を確保することを目的として、各年次には、1年間又は1学期に登録ができる履修単位の上限が決まっているので、留意して履修申請をすること。
- (9) 指定された期日までに履修申請を行わない場合は、学業の意思なしとみなし、**退学を命ずることがある**。

※1 コマコードとは、授業時間割表に授業科目名等と共に記載されている番号で、その時限の授業科目の固有の番号である。

Ⅸ 正規の履修から外れる場合

1. 再履修

履修申請をしたが単位を修得できなかった授業科目を、再び履修することを再履修という。再履修は、原則として、再履修のクラスを設けている場合は、そのクラスで受講すること。

2. 規定外履修

該当するクラスの授業時間以外のクラスで受講せざるを得ない場合の履修を規定外履修という。規定外履修をする場合は、予め学部事務室に相談すること。ただし、原則として1年次生の規定外履修は認めない。

X 成績評価について

1. 成績評価の方法

学業成績は、試験（筆記・レポート等）及び授業時の小テストの結果、課題提出状況等をもとに総合的に評価する。授業科目ごとの成績評価方法は、シラバスに記載している。

なお、出席すべき授業時数の3分の1以上を欠席した者は、当該授業科目の修了認定を受けることはできない。ただし、病気又は正当な理由による長期欠席の場合には、特別に考慮されることがある。

2. 定期試験および臨時試験

- (1) 試験は、定期試験と臨時試験があり、定期試験は原則として学期末に実施する。
- (2) 試験時間割は掲示により周知する。

3. 試験に関する通則

- (1) 試験場内では、すべて監督者の指示に従うこと。
監督者の指示に従わない者には退場を命ずることがある。
- (2) 試験場内では、筆記用具・持込を許された資料以外のものはすべてカバンの中に入れて資料等をむき出しのまま机の中に入れてはならない。
- (3) 学生証は机上の見やすい場所に提示して置くこと。
- (4) 試験開始から20分を経過した後は入室・受験を認めない。
- (5) 試験開始後25分間は退場することができない。監督者が退場を命ずる場合はこの限りではない。
- (6) 試験中監督者の許可を得ないで試験場を出てはならない。
- (7) 試験の行われる学期の授業料未納の者、授業時数の3分の1以上欠席した者は試験を受けることができない。受験資格のない者の答案は無効とする。
- (8) 病気・事故その他正当な事由によって受験できなかった者は、診断書・事故証明その他正当な事由を証明する書面を添えて早急に学務事務室に届出なければならない。届出の遅れや無届けの場合は評価対象外となる。

4. 追試験

- (1) 定期試験を、病気その他やむを得ない事情により受験できなかった者は、追試験を受けることができる。試験は、筆記・レポート等により実施する。
- (2) 追試験を希望する者は、正当な理由を証明する書面をもって速やかに学部事務室に届け出ること。
- (3) 追試験は、成績通知書の評価欄に「T」の表示がある科目が対象となる。
- (4) 追試験は、履修（再履修を含む）した年度の学期末に限り受験することができる。

- (5) 追試験は、原則として学期末に実施する。
- (6) 追試験を受験する者は、「追試験受験願」を学部事務室に提出しなければならない。
- (7) 追試験の受験料は、1科目につき200円である。

5. 再試験

- (1) 定期試験の結果、不合格となった授業科目のある者は、当該授業科目の担当教員が再試験を行う場合、受験することができる。試験は筆記・レポート等により実施する。授業科目によっては再試験を行わない場合もある。
- (2) 再試験は、成績通知書の評価欄に「F」の表示がある科目が対象となる。
- (3) 再試験は、履修（再履修を含む）した年度の学期末に限り受験することができる。
- (4) 再試験は、原則として学期末に実施する。
- (5) 再試験の受験を許可された者は、「再試験受験願」を学部事務室に提出しなければならない。
- (6) 再試験の受験料は、1科目につき1,000円である。

6. 試験における不正行為の懲戒について

- (1) 試験における不正行為は厳正に処分する。
- (2) 本書「城西大学 学内試験等における不正行為の取り扱い指針」を参照すること。

XI 成績発表

- (1) 成績発表は、開示期間に指定URLにアクセスし、web成績照会システムを開いて行う。
- (2) 成績評価は、下記XII GPAについての「GPの基準」を参照のこと。
- (3) 成績についての疑問、質問等は早急に学部事務室に問い合わせること。

XII GPAについて

本学では、「GPA (Grade Point Average)」制度を導入している。以下に示すことを十分理解しておくこと。

1. GPAの意味

- (1) GPAの値とは、自分の成績を数値化したものである。学期毎や学年毎までのGPAや入学からの通算のGPAを比較することで、自らの学習成果の推移を知ることができる。
- (2) GPAの値には、T評価、F評価およびZ評価を受けた科目についても計算に組み入れられる。したがって、安易に考えて開講期間の半ばで授業参加をやめた場合などは低い値となる。

2. GPAの計算

「GPA」は、下記の基準に基づいて評価した成績のGP（Grade Point）に各科目の単位数を掛けて合計し、履修登録した科目の単位数の合計で割った1単位あたりのGP平均値（Average）である。仮に、履修した科目の成績がすべて「S」評価の場合はGPAの数値は4になり、すべての成績が「C」の場合は1となる。

「GPの基準」

成績評価（表示）	評価の基準（点）	可否	GP
S	100～90	合格	4
A	89～80	合格	3
B	79～70	合格	2
C	69～60	合格	1
F	59以下	不合格	0
T	追試験受験可	未受験（不合格）	0
Z	失格	不合格	0

[GP×当該科目の単位数] の合計

GPA= _____

履修登録科目の単位数の合計（T評価、F評価、Z評価科目含む）

（注） 不合格となった科目を次年度以降に再履修して合格した場合には、成績は上書きされ、過去の不合格の成績は、GPA計算式に算入されない。

（注） GPA計算式に算入されない科目もある。